

蒸し暑い日が続きますが、いかがお過ごしですか？

これから、夏本番です。夏休みには、図書館の開いている日もあるので、ぜひ、足を運んでください。

瀬戸高校の図書館には、なかなか面白い本がそろっていますよ。今回は、瀬戸高校の本棚から、4冊ピックアップしてみました。また、読書感想文のコンクールの課題図書も紹介します。

勉強に、遊びに、楽しい夏にしてくださいね！

瀬戸高の本棚から

リバース
湊かなえ

リバース
湊かなえ

少し前に、ドラマ化された作品。コーヒーをいれることが得意な深瀬和久は、他には何のとりえも無いと思いつている。そんな彼には秘密があった。

ツバキ文具店
小川糸

ツバキ文具店
小川糸

少し前に、ドラマ化された作品。雨宮鳩子は、文具店の他に、手紙などの代書の仕事をしている。美しい鎌倉の四季とそこで暮らす人々の物語。

リズム
森絵都

リズム
森絵都

13歳のさゆきの物語。森絵都のデビュー作。さゆきは普通の女の子だけど、色々なことに悩み、成長していく。自分のリズムをとりながら。

夜を乗り越える
又吉直樹

夜を乗り越える
又吉直樹

「火花」はどのように創作されたのか？また、なぜ読書をするのかについて幼少期の記憶などから熱く語る。

池澤夏樹＝個人編集の日本文学全集をそろえています！

日本文学全集と言うと、むずかしい、とか、つまらない、と思ってしまう人も多いのではないのでしょうか。しかし、この全集では、現在、第一線で活躍している現代作家の人々も、多く参加しており、読んでみたいというキモチにさせてくれるような顔ぶれになっています。

例えば、樋口一葉の「たけくらべ」。この現代語訳をするのが、川上未映子。「伊勢物語」を川上弘美。「枕草子」を酒井順子。「方丈記」を高橋源一郎。というように…。(「源氏物語」の角田光代は、これから刊行されます)

古典だけでなく、能・狂言や、百人一首、近現代詩歌、近現代作家についてもとりあげられています。他には、夏目漱石、森鷗外、谷崎潤一郎、宮沢賢治、中島敦、大岡昇平など、池澤夏樹によってどの作品が選ばれているか、のぞいてみるだけでも楽しいかもしれません。

ぜひ、図書館に来て、パラパラとめくってみてください。



図書館リラククスコーナー

図書館でのんびりと過ごせる空間を作っています。本を借りなくても、ちょっと休憩って感じでもOK！気軽に図書館へ来てくださいね。



皆さん、こんにちは。今年も、あと少しで夏休みです。
夏休みと言えば、読書感想文。今年の課題図書をご紹介します。

～課題図書～

「第63回青少年読書感想文全国コンクール」の高等学校の部の課題図書は次の3冊です。

フラダン
古内 一絵

「フラダン」 古内 一絵

震災から5年後の福島の高校を舞台に、フラダンス愛好会の青春を描いている。もともと女の子の少ない工業高校で、愛好会に集められた、個性豊かな男の子4人の成長や努力が、みんなの気持ちも変えていく。何かに熱中したくなる一冊です。

「ストロベリーライフ」 荻原 浩

倒れた父親に代わって、イチゴづくりにとりかかるとなった恵介。いずれは農業をやめようと思いつつ、のめりこんでいく。父母、三人の姉、妻、子供。みんなの思いを抱えて、格闘する日々が続く。

ストロベリーライフ
荻原 浩

「犬が来る病院」

: 命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと

大塚 敦子

聖路加国際病院で、難病に立ち向かう子どもたちの日々を追った。病院内の学校のこと、犬がやってくる日のこと、医師や看護師とのふれあい、子どもたちの生活を少しでも豊かなものにしようとする取組みの数々。主に4人の子どもに焦点をあててまとめられている。

犬が来る病院
大塚 敦子